

令和 元年 1 2 月 9 日  
日 本 放 送 協 会

お 知 ら せ

本日の経営委員会において、令和2年1月25日付で次のとおり  
会長を任命することを決定しました。

会 長            まえ だ てる のぶ  
                  前 田 晃 伸

みずほフィナンシャルグループ名誉顧問

任期は3年です。

なお、上田良一会長は、任期満了により令和2年1月24日を  
もって退任となります。

2019年12月10日  
NHK広報局

### 前田晃伸次期会長の会見要旨

昨日の経営委員会で会長に選任され、大変な重責を担うことになった。突然のご指名で本人が一番驚いているが、できるだけ早くNHKの実情を把握して、公共放送にふさわしい仕事をしていきたい。

(Q. 就任を決意する最大の理由) 昨日、石原委員長にぜひやってほしいと言われたので、こうなったら仕方がないと。やるからには頑張りたい。それ以上のものはございません。

(Q. これまでで一番印象に残っている仕事、銀行時代の経験で生かせると思っている点は) 銀行を離れてからもう10年以上になるが、銀行を統合した時にシステム障害を起こし、大変ご迷惑をおかけしたのが、一番印象的だった。三つの銀行を一つにするということで時間をかけてやったが、統合の作業を通じて、組織をいかに効率化するか、スピード感を持ってやらないといけないと。考えているだけではどうにもならないということだった。NHKにどう生かすかというのは、やってみなければわからない。

(Q. 好きなNHKの番組) 特に素晴らしいと思ったのは科学番組で、宇宙に関するものも含めて、時間をかけてじっくり作った番組を高く評価している。

(Q. インターネットの普及でテレビ離れが進んでいると言われていたが、どう見ているか) 時代が変わるので、ある程度は仕方がないと思う。ただテレビがなくなるわけではなく、媒体としてテレビはテレビで価値があると思う。やはり中身のいい、質のいいものを提供していかない限り、今まで通りとはならない。デジタル時代は情報が非常にスピードアップして流れる時代で、これまで想定しなかったようなことが起こるので、それを含めて対応していかなければいけない。

(Q. 政権との距離についてどのように向き合っていくのか) 大切なのは公平・中立だと思う。私はどこかの政権とべったりということは全くない。その気もない。権力を持っている政権が、報道機関から権力をチェックされるのは当たり前だと思っている。きちんとした距離を保つということではないか。

(Q. 座右の銘は) 福沢諭吉の「独立自尊」。あの明治の時代に、日本が独立する時に何が大切かということ。私は大分県中津市が出身で、そこに「独立自尊」の碑が立っていた。小学校の時もずっと遊んでいたもので、頭に記憶している。

(Q. 公共放送のトップとしての抱負は) やはり公共放送なので、国民の皆さんから信頼される番組を作り続ける。それに尽きるのではないかと思う。あまり視聴率がどうだとか、そちらばかりになるのではなく、質の高い番組を提供し続けるということではないか。



(Q. 経営哲学、経営者として最も大切なものは) 私も金融機関しかやっていないが、やはり一言で言うと、しっかり結果を出すということではないか。組織は常に陳腐化するし、巨大化するから、それは常に見直さないといけない。どんな組織でも硬直化するので、常にそういう目で見ないと時代と合わなくなる、ニーズに合わなくなる。

(Q. 受信料制度についてはどのように考えるか) NHKは基本的に受信料を財源としてやっているから、特定の利益とか視聴者に左右されないで、社会生活の基本となるような確かな情報や豊かな文化を育む番組をわけ隔てなく、あまねく届けるというのが必要だと思う。そういう意味で、やはり受信料を広く視聴者の皆さまに負担していただくのが、法律の趣旨でもあると思う。

(Q. 受信料という特殊な負担金で支えられている組織のかじ取りで、株式会社の社長と全く違う立場になるかと思うが) 私もこれは初めての経験。民間企業では、いくら配当するとか、株価を上げていくとか、そういう話が経営の大きな課題だが、公共放送というのは、全く違った形態だと思う。よく勉強させていただきたいが、公共放送の持つ意味は非常に大きいと思うので、求められている使命にはっきりと答えられるような形にしていくのが仕事ではないかなと思う。